

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200181		
法人名	有限会社 クローバー		
事業所名	ぐるーぷほーむ 花いちもんめ		
所在地	恵庭市恵み野東7丁目5-6		
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0171200181-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成27年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外観は季節感を出す為、ホーム周辺には花壇を作り、内観は壁一面ガラス張りとなっており、日差しが入り大変明るくなっております。昔馴染の和ダンスや置物、そして季節を漂わせる装飾品を飾り、風情ある落ち着いた空間を作っております。理念にも掲げている、愛情・やさしさ・思いやりをモットーに、利用者様一人ひとりと向き合い、身内や自分達も入居したくなる様なホーム作り、そして一日の生活の中でゆったりと会話や冗談等交わし笑ったり、また一瞬でも「ホームに入居して良かった」「幸せだな!」と感じていただける様な環境作りを目指し、日々利用者様と共に生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花の町、恵み野の閑静な住宅街に位置し、近くには公園、田園があり常に季節を感じられる恵まれた環境にある。鉄骨造り2階建ての1階部分を改装し、壁一面の大きな窓、広々とした居間・食堂は一体的で、昔馴染みの置物・和ダンス、利用者・職員で作った季節の貼り絵、季節の花が飾られ、死角の少ない間取りで利用者の動きが一望でき、利用者は安心して、テレビ・ビデオを見たり、ゲーム、会話などをしながら思い思いに過ごしている。職員は、笑顔で優しく、レクリエーションを兼ねた体操などの運動でリハビリを取り入れて、体調が悪くならないよう気をつけている。車いすを使用していた利用者が脚の体操を行った結果つかまって歩けるように改善し、利用者の転倒事故も減少した。利用者は、散歩しながら庭木・花を見て地域の人と挨拶を交し、地域行事の草取り、敬老会、祭りなどに参加して交流し、地域住民がホーム周りの花植えなどに協力して交流し、事業所の行事には地域住民に参加を呼びかけている。また、ボランティアが来訪して相互に交流している。毎月、家族に利用者の近況を報告し、意見を運営に反映させている。職員は、優しく親身に利用者に接し、常にケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様・ご家族の尊敬や願いを最大限尊重し、その人らしい暮らしを支えて行ける様理念を設けた。職員採用時には必ず理念の説明を行い日々念頭に置く様休憩室にも理念を掲げている。	利用者への愛情・思いやり等、職員の思いが込められた事業所独自の理念を居間、スタッフ室に掲示し、管理者と職員はスタッフ会議等で理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内行事、町内清掃等にも積極的に参加している。又、定期的に来設されるボランティアさんもおおり、散歩時には挨拶を交わしている。	町内会に加入し、清掃、敬老会などの地域行事に参加して交流し、事業所行事の敬老会などに参加を呼びかけ、ホーム周りの花植えに地域住民が協力し、ボランティアが来訪して相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも気軽に立ち寄って頂き、見学・相談・悩み事等を受け入れる体制であり、時には助言させて頂く事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の生活の様子や行事、災害対策、外部評価、研修等を報告し協議している。スタッフには、カンファレンスや申し送り等を通じて、サービスの向上に努めている。	家族、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民などが出席して年6回開催している。活動状況、行事などを報告し、事業所への要望などを協議して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。避難訓練(年2回)に合わせて開催し、避難訓練に参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、恵庭GHネットワークで月1回の会議を行っているため、市担当者とも協力関係が築けている。他グループホームとも連携をとりながらサービスの向上に努めている。	市担当者とは、書類提出、利用者の状況などを報告し意見交換を行い、運営推進会議、GHネットワーク会議で情報交換、指導を得て、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加しており、各職員が身体拘束に対する知識と認識をもっている。利用者に対する対応をカンファレンス等で話し合い全員周知徹底している。日中は施錠せず、見守り、環境整備等を行っている。	身体拘束に関する外部研修に参加し、研修結果を職員に伝達して共有し、身体拘束をしないケアに努めている。職員は身体拘束の弊害、廃止の意義を理解している。防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で通じ得た知識をカンファレンスや日々の中で常に認識し合っているため、虐待防止については徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員、成年後見制度の研修を受けたが、今日まで依頼や相談はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明を行い、ご家族の方々からは、不安や疑問点はなく、理解されていると思われる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情兼意見箱を設置しているが、今日まで利用された方はいないが、日常的な関わりの中で思いを察知したり、また意見や要望をいつでも気軽に伝えられる様、良い関係作りに努めている。	日常の会話などから利用者の意向の把握に努め、家族の意見や要望は面会時、運営推進会議など来訪する機会を捉えて積極的に会話を交わし、情報を提供して意見を聞くように努めて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をいつでも反映できる体制作りをしている。カンファレンス以外でも、日々の中で気軽に話し合い、改善できる事はすぐ取り入れ、反映させている。	職員が意見を言いやすい雰囲気や日頃から作り、個人面談、カンファレンスや日常の会話の中から意見や提案を聞いて話し合い、検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話に傾聴する機会(個人面談)をもち、個々の努力を評価し更なる向上に繋がる様、努めている。又、働きやすい様、スタッフの意見を尊重し、疲労感が溜まらない様、有給休暇の使用も促し、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修・スタッフ研修・GHネットワーク研修等、積極的に参加させている。その研修結果をカンファレンス時に報告し、研修内容を共有し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームの協力も得ながら、互いのホームへ研修に行き、交流を深めている。その他GHネットワークを通じ、各分野での勉強会を計画・実行し、地域全てのホームの質の向上を目指し、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者・ケアマネが中心となり入居後も不安な事・要望等、傾聴している。スタッフもそれらの状況を受け止めコミュニケーションを大切にしかつ思いを尊重、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた際、ご家族の不安や願い等を傾聴し、十分受け止め理解した上で、ホームとして出来る事・役割等も説明し、信頼関係を築ける様、雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況を把握し、何が必要かを見極め、対応できる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を生かした場がもてる様努め、職員も利用者様から日々学び、共に支えあう時間・関係作りをし、お互い共存し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度のお手紙や電話連絡・面会時等、日常生活を細かく伝え、情報を共有する事を努めている。協力得ながら、支援していく協力関係が築かれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人等が来設した際には、再度足を運んで頂ける様、働きかけている。又、本人が「会いたい」と希望されている時には、ご家族の承諾を得て、連絡している。	知人・友人等が訪ねて来た時は、お茶を出して居室でゆっくり話が出来るよう支援している。昔のことを話しながら利用者の生活歴を把握し、郷土資料館見学、美容室など家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者様に変化がある為、個々の性格を理解し、その都度見極め配慮している。スタッフ全員情報を共有し、共同作業やレクリエーション活動・会話等を通して、より良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもいつでも相談に来て欲しい事伝え、死去後も懐かしく思い遊びに来られる。公共施設等で会った際は挨拶等交わし、医療機関等の利用者にはお見舞いに伺う様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からも意向を汲み取り要求に答えられる様努めている。困難な場合は、ご家族から情報も得てニーズに繋がる様検討している。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りの他、センター方式による基本情報をご家族に記入して頂き入居後も従前の生活様子等の話を聞かせてもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し状況に合わせたケアが出来る様、努めている。カンファレンス時にも現状を十分に話し合いケアに活かせる様、努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会の際は、現状のケアについて報告し意見やアドバイスを頂く機会を設けている。それらの意見を担当者中心にカンファレンス時に検討し盛り込める事は、プランに追加している。	利用者と家族の意向を反映させ、介護支援専門員を中心に介護計画について話し合い、3ヵ月毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事や言葉・表情等小まめにフローシートへ記入しケース記録に反映、情報共有している。又必要に応じて、計画書の見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診・緊急受診は家族の要望に応じ職員が付き添い支援している。看護師が体調を管理し利用者様・ご家族の方々も安心して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内地域行事に参加させて頂いたり、いつでも協力して頂ける体制もできている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が中心となり、日常の健康状態を管理し、必要に応じ様々な医療機関を受診している。	利用者、家族の意向に添ったかかりつけ医に受診している。職員が原則同行支援し、変化があれば家族に報告している。看護師が日常の健康状況を把握して管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保し、健康管理や医療面での助言をもらい支援している。何か異常がみられた際には、いつでも報告ができる様、24時間体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、小まめに面会を行い、安心して治療に専念できる様支援している。又、ご家族への報告も忘れずに行い、情報交換している。病院関係者とも情報交換をし、退院時の支援体制を整えられる様、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員が中心となり、本人や家族・医師・職員等、それぞれの方針・要望を全員で共有できている。又、運営推進会議を通して、地域の関係者とも共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について説明し確認印を得ている。重度化が認められた段階で、本人、家族と協議し、医療機関に入院するなど希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員救命講習会に参加している。他、ミニ勉強会を開催し、定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、定期的に避難訓練を実施し、全職員でも定期的に実施している。近隣の方や民生委員の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	消防署の指導、地域住民の参加を得て年2回（昼・夜想定）の避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーも避難訓練に参加している。水・食糧品について備蓄されている。	災害に応じた一時避難場所を指定し、通信網が破壊された場合を予想して、家族等へ一時避難場所を予め通知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシー・自尊心を傷付けぬ様声掛けや対応には十分配慮し守秘義務も周知徹底理解している。	さりげなく優しく声掛けするなど、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。プライバシーに関する記載がある書類は鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から話しやすい雰囲気となる様個々に合わせた対応を心掛け出来る方は自己決定の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを把握しその日のスタッフが連携をとり個々に沿う支援や自由な過ごし方を基本として支援している。利用者様から「ゲームしよう！」と声を掛けてくる事も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣美容室での毛染めや訪問美容室によるカットを行って頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材あれば取り除いたり、器や盛り付け等で摂取して頂ける様工夫をしている。他、食べたい物や行事等に合わせ、食事内容を工夫している。	利用者の希望を聞いて、代表者、職員が献立を作り、食材は地域の商店に利用者と一緒に買物に行っている。誕生日などの行事食、ひな祭り、子供の日など季節に合わせて献立を工夫している。利用者は能力に応じてテーブル拭きなどをして、大きなテーブルを囲んで職員と一緒に皆で楽しく食事をしている。家庭で使われているような親しみのある器を使って食事を一層楽しくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個々に合った量で提供。水分摂取して頂けない方には小まめに提供する等工夫している。カロリー計算も行い栄養バランスも考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夜間はポリドント洗浄を行い、出来ない部分や不十分な所は、必要に応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握した上で、個々に合った時間誘導を心掛けている。できる限りトイレで排泄出来る様援助し、自尊心にも十分配慮しながら支援している。	個々の排泄パターンを把握して、表情や態度に気をつけながらさりげなく声かけ誘導して排泄の自立に努めている。誘導により改善し、おしめの利用者は0人となった。自分で出来ることは自分で行う様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけや水分量・食事等にも工夫をし、薬に頼らざるべく自力にて排便ができる様、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週6回行っているが、今日まで入浴時間の希望は聞かれず、声掛けにて入浴して頂いている。入浴拒否時は、無理強いせず、翌日に廻す等、本人に合わせた対応を行っている。	入浴は、個人の希望を尊重しているが最低でも週2回を基本としている。昔のことを話しながら入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、翌日にするなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の促し等個々の体調に配慮し生活リズムを作る様にしている。夜間不眠時は、暖かな飲み物を提供等気持ちの安定を図る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には誤薬・誤飲がない様見守り・確認と薬を徹底し、理解もしている。変化時は看護師指示の下、必要に応じて受診する等の体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自然に役割分担されており積極的にお手伝いをして頂ける時もある。ホーム内で出前や外食・買い物等楽しんで頂ける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に配慮しながら悪天候以外は毎日散歩は行い本人の希望に応じて花の水遣りや草取り・外気浴・パークゴルフ等季節に合った外出を行っている。又ご家族対応協力の下外食や買い物・温泉・ドライブ等もやっている。	個々人の体調の維持管理を最重点に、無理の無い散歩、花の水やり・草取りを行いながらの日光浴、家族の希望や支援を得て、買い物、温泉、外食などで日常生活に変化と潤いを提供するように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望・同意によりホームで管理をしている。小遣い所持者には料金確認を行いお孫様へお小遣い・病院代の支払い等行う事で満足されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は夜以外いつでも使用できる。以前は手紙を書き遠方家族へ送る事もあったが今は希望がない為職員援助の下、年賀状を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中日差しの強い時はロールカーテンをしたり夜間は、玄関ガラスに映る影やライトで混乱を招かない様カーテンを装着する等の工夫をしている。歩くスペース箇所には物を置かない様にし季節に応じた飾り物や花等を飾り、居心地良く過ごせる様工夫している。	玄関は、広いスペースが確保され、居間・食堂は一体的で死角の少ない間取りで利用者の動きが一望でき、利用者は安心して思い思いに過ごしている。また、古民家風の置物と利用者・職員が作った季節に合わせた貼り絵、季節の花が飾られ、利用者、職員と一緒に食事が出来る大きなテーブル、心地よくテレビを見るためのソファが配置され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	洗面所前にも椅子とテーブルを置きいつでも座れる様にしている。また気の合う利用者様同士で自室にて一緒にお茶を飲み楽しめる姿もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物等持参して頂いている。ぬいぐるみや造花・写真等、好みの物を飾ったり使いやすいベッドやタンス等置き、居心地良く過ごせる様にしている。	使い慣れ親しんだ、ベット、筆筒、テレビ、ソファなどを思い思いに配置して、思い出の写真や絵などを飾り、今の生活を大切に落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を設置しトイレもわかりやすく表示している。足元には物を置かない様配慮し安全かつ自立した生活が送れる様環境整備にも努めている。		